

◇町の人口◇
(昭和58年10月1日現在)
()内は合併時

男	20,388人 (7,676)
女	20,966人 (7,715)
計	41,354人 (15,391)
	11,650世帯 (3,229)

町合併30周年



わたしたちの田辺町が誕生して今年で30周年——。ようやく青年期から壮年期を迎えたまちで、これはあくまでも、更に円熟したまちへ大きくジャンプするためのワンステップにほかならない。

これまでは大きな壁にあたることなく、着実に成長してきたわがまち「たなべ」。これから先は、どんな困難が待ちうけるかもわからない。「田辺町基本計画」という道しるべに沿って堅実な歩みをしながら、時には陸上競技の100メートル走のように全力疾走も必要。これらをミックスして限りなき前進をするためには、次代を担う青少年の強い意志と、健全な心身に大きな比重がかかっている。

前途洋々たる「田辺町」を支えていくのはキミたちである。まちの重さと世間の荒波に負けず、田辺町とともに大きく伸びることを期待する。

合併30年・町政75年

市制移行への重要期



原田町長

昭和二十六年四月、田辺町、大住村、草内村、三山木村、普賢寺村が合併して本年で三十周年を迎え、新田辺町が誕生しました。また本年は明治三十九年十月に田辺町が町制を施行して七十五年にもあたり

た先人の人たちのご努力と町議会及び住民のみなさんの猶大なご協力によることと深く感謝しています。

いまや本町は、町から市へ移行しようとする重要な時期にきている。市制移行に向けて、福祉行政の充実、重点を置くほか、新田辺町区画整理事業、流域公共下水道事業、都市下水路事業、片町線複線電化の実現、国道・府道のバイパス、農村総合整備計画事業、教育施設の充実等を計画的に進め「緑のある健康な文化都市」実現に向けて最大の努力をばらうつもりです。

今後は、人口が急増する中、「一田融合」の精神で事業の実現に努め、今日の成果を見るに至りました。このことは合併に苦勞されたくありません。

秩序ある町づくり

住民の英知を結集し



吉田議長

合併後三十年、本町は、社会の進展とあわせて、当時では想像もできなかったような変貌を遂げてまいりました。住宅、道路、上水道、学校、環境施設、公園など、あらゆる面において飛躍的な発展を示すようになったのであります。

この間、まちづくり構想で最大の努力をばらうつもりです。

今後、人口が急増する中、「一田融合」の精神で事業の実現に努め、今日の成果を見るに至りました。このことは合併に苦勞されたくありません。

合併後三十年、本町は、社会の進展とあわせて、当時では想像もできなかったような変貌を遂げてまいりました。住宅、道路、上水道、学校、環境施設、公園など、あらゆる面において飛躍的な発展を示すようになったのであります。

この間、まちづくり構想で最大の努力をばらうつもりです。

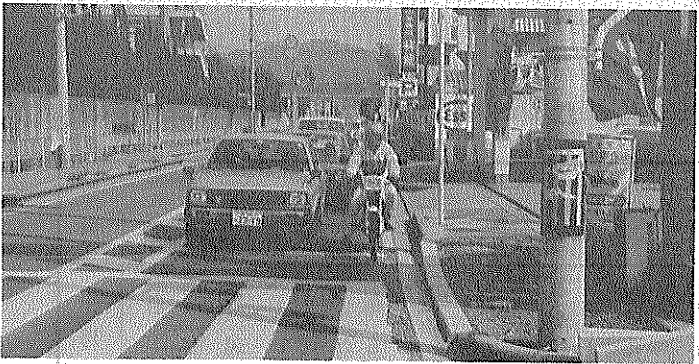
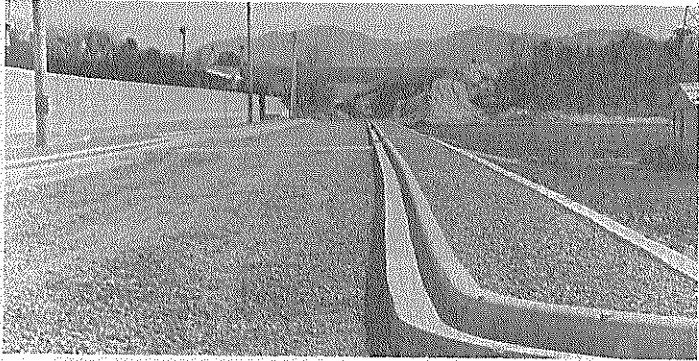
今後、人口が急増する中、「一田融合」の精神で事業の実現に努め、今日の成果を見るに至りました。このことは合併に苦勞されたくありません。

同時に、これまでに成長発展いたしましたのも、住民各位の不断の努力と格段のご協力の賜ものであること、厚く感謝申し上げる次第であります。

秩序ある開発、緑と健康と文化的な調和のとれた町づくりは、行政のみの努力だけではありませぬ。住民の知性と行動力、更に関係各機関のご助力によって完成するものと考えます。

学術研究都市構想、第三次京都府総合開発計画などの大構想の中での町づくり、更には、行財政改革の問題など、町の問題にかかわる大問題をかかえ、前途は多難ではありますが、福祉の充実したためくりのある町づくりに尽してまいりたいと考えています。

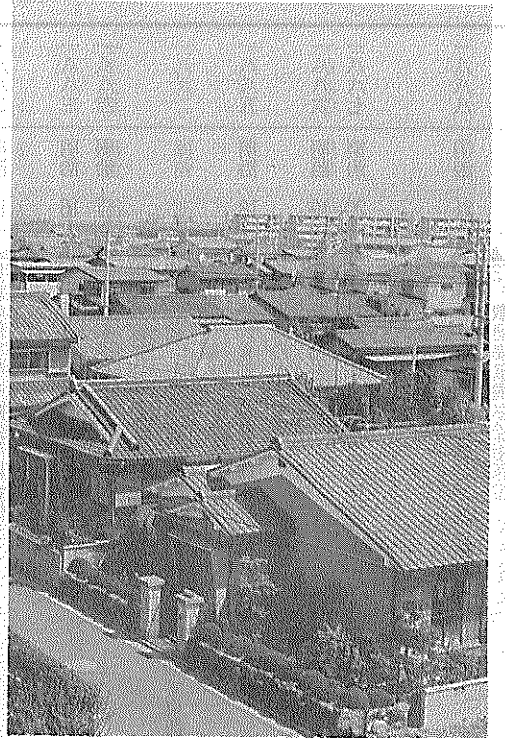
新しい町づくりに多大の努力をされた関係各位と町当局のご労苦に対し、深く敬意を表すとともに、今後更に住民が一丸となって、町発展のためご協力くださるようお願い申し上げます。



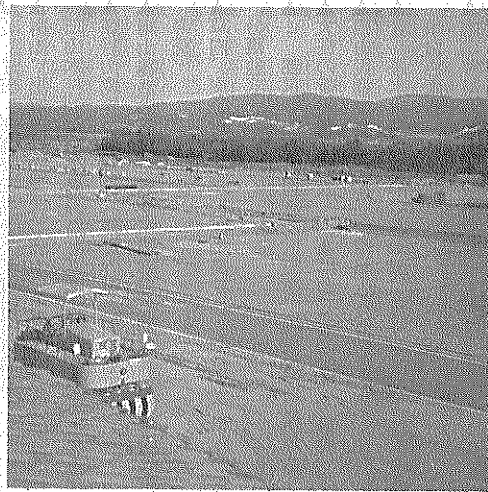
みんなで まちづくりを

満三十歳を迎えた今、町のようすは大きく変わってきた。
明日から、町の歩むべき姿は住民のみならずが選択された方向へすすむべきである。町の明日にかける現在の心境は「緑のある健康な文化都市」実現へ向けて行政施策が成されている。
町の過去のようすと現在のようすと、この写真にふれて、今日の町の姿をもう一度見直しながら力強い門出を期待しよう。

近鉄新田辺駅東側の農地を近鉄が住宅開発に着手して、町内で初の大規模住宅地が完成。(造成中と家並の新田辺東住宅)

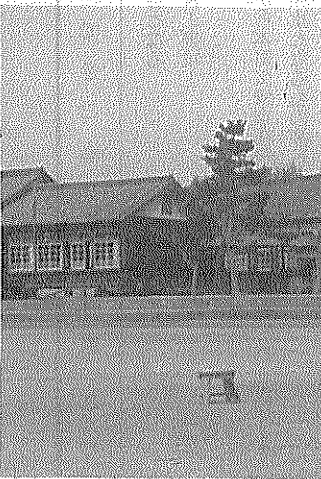


国道昇格により東バイパスが完成し、同地区内の交通量は緩和されたが、周囲の町並の変化とともに町内では新田辺駅前から本町にかけて最大の交通ネックに。(田辺高校前から東を望む)

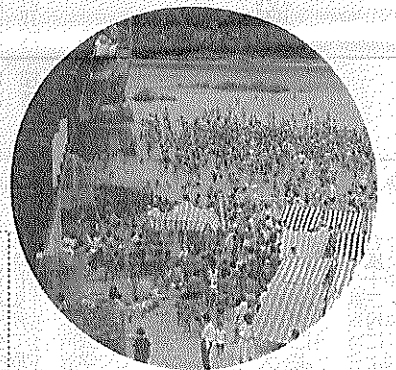


明日のために
今日の日までを
ステップに

人口急増に伴い小・中学校も新増築が急ピッチですすみ、町内の各校は全面鉄筋化される。(木造も今ではなつかしく)



町内唯一の水泳場があった近鉄木津川鉄橋付近。(フルシーズン利用の運動公園に変身)



農業面でも手作業から機械化へ。昨年は西八地区では場整備も。(機械化で省カアツ)



変わりゆくわが町

緑のある健康な 文化都市をめざし

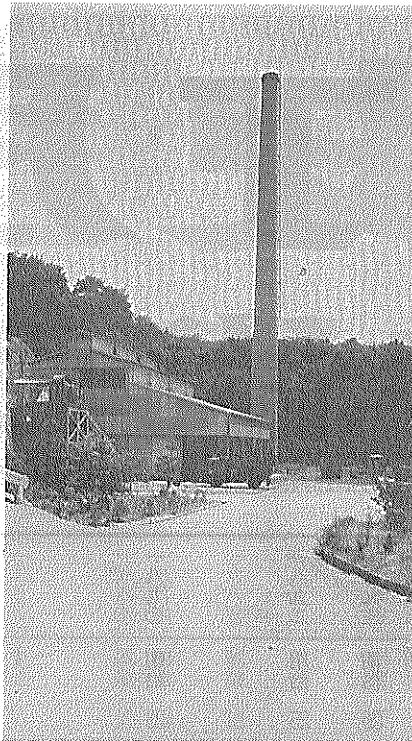
歴史年表

ら現代まで

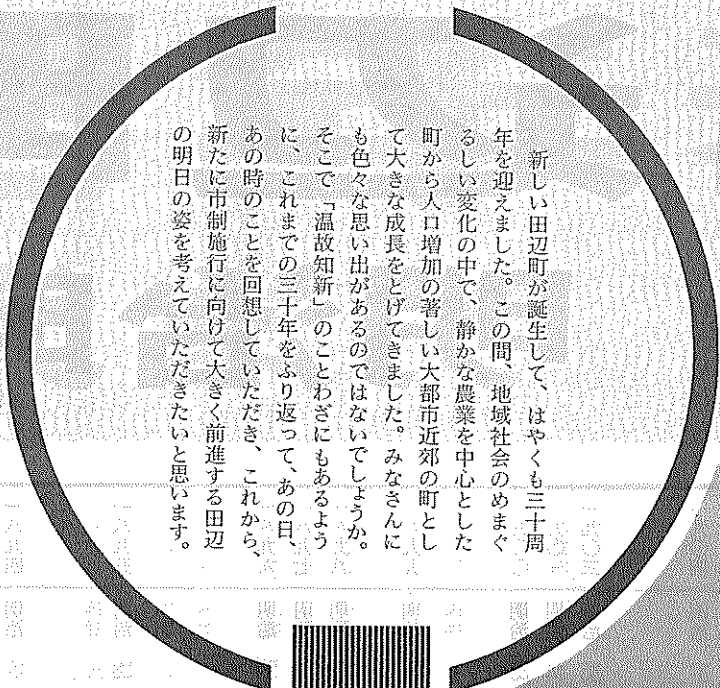
西暦	年号	町のおもなできごと	西暦	年号	町のおもなできごと	西暦	年号	町のおもなできごと
一八六八	明治 1	▲江津の恵日寺、観音堂廃寺となる	一九二八	大正 7	▲田辺交通株式会社設立(田辺川八幡橋)馬車運行。車にかわる。昭和四年、男山自動車株式会社設立。きゅう取。	一九六八	昭和 43	▲8 町社会体育協会発足
一八七〇	明治 3	▲1 木津川の付け替え府営工事竣工	一九二二	大正 10	▲電話が家庭につく。田辺管内で四十七軒加入	一九六四	昭和 39	▲10 普賢寺簡易郵便局できる
一八七二	明治 4	▲松井、中住院廃寺となる	一九二二	大正 11	▲弘道高等小学校廃校	▲2 全国町村議会議長会から本町議表彰される	▲4 宅地造成工事規制区域指定(町西部丘陵地域)	▲4 自治省から公明選挙のモデル地区指定受く
一八七二	明治 5	▲11 薪炭(旧藤原、一休寺で割腹)	一九二八	昭和 3	▲馬坂川の大字河原の水路橋できる	▲6 普賢寺保育所開園	▲5 自治省から公明選挙のモデル地区指定受く	▲6 普賢寺保育所開園
一八七三	明治 6	▲5 町内小学校開校(田辺、興戸、河原、東、草内村の五カ村)で田辺小学校(済美館)を開校。大住、松井、新、岩田、水主村の五カ村で大住小学校(進徳校)を開校。	▲1 奈良電鉄(現在の近鉄京都線)開通(新田辺、三山木駅設置)	▲興戸寿命寺焼失	▲8 「暴力追放の町」宣言	▲2 町基本計画まとまる	▲8 「暴力追放の町」宣言	▲2 町基本計画まとまる
一八七四	明治 7	▲2 田辺新田が田辺村に合併、北興戸村と南興戸村合併、興戸村となる。	▲天津神川の整道拡幅	▲田辺登記所、田辺小字西垣内五〇の一に移る	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充
一八七六	明治 9	▲2 打田、高船の二カ村、打田小学校開校	▲健康村建設着手	▲健康村建設着手	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充
一八七六	明治 9	▲南山、出垣内(山崎含む)高木、山本の四カ村が合併し三山木村となる。宮の口と宮津合併し宮津村となる。	▲大住桃林の開墾	▲大住桃林の開墾	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充
一八七七	明治 10	▲煤谷山境界争論解決(普賢寺村と相楽郡村々)	▲健康村開拓	▲健康村開拓	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充
一八七七	明治 10	▲南山義塾の前身、蓋羅家塾開設(棚倉孫神境内の松寿院)	▲青年学校できる	▲青年学校できる	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充
一八七八	明治 11	▲草内、東阿村の小学校が培良校として田辺小学校から分離独立	▲大住郵便局(郵便取扱所)できる	▲大住郵便局(郵便取扱所)できる	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充
一八七九	明治 12	▲4 郡区制実施、經喜郡役所 田辺村におかれる	▲大住郵便取扱所、無集配郵便局に昇格	▲大住郵便取扱所、無集配郵便局に昇格	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充
一八八〇	明治 13	▲大住の愛民義塾開設 ▲村会、連合村会の開設	▲京阪バス(八幡川田辺間)運行	▲京阪バス(八幡川田辺間)運行	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充
一八八一	明治 14	▲自由民権運動さかん、伊東熊夫ら活動す	▲日赤第一病院田辺診療所設置	▲日赤第一病院田辺診療所設置	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充
一八八一	明治 14	▲8 悪水抜井路をめぐる田辺、河原両村と新村との紛争おこる	▲田辺勤労者設置(22年、府田辺公共職業安定所と改称)	▲田辺勤労者設置(22年、府田辺公共職業安定所と改称)	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充
一八八二	明治 15	▲南山義塾(三山木)開設	▲市町村長の公選始めて行われる	▲市町村長の公選始めて行われる	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充
一八八三	明治 16	▲田辺の信行寺を西念寺に合併	▲五カ町村組合立、田辺中学校創立	▲五カ町村組合立、田辺中学校創立	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充
一八八三	明治 16	▲吉田喜内(大住)、伏見銀行つくる	▲山城田辺税務署設置	▲山城田辺税務署設置	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充
一八八四	明治 17	▲10 松井西念寺再建さる	▲大住村・草内村・三山木村・普賢寺村の四カ村を廃し田辺町に編入統合。切代町長市川忠二	▲大住村・草内村・三山木村・普賢寺村の四カ村を廃し田辺町に編入統合。切代町長市川忠二	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充
一八八四	明治 17	▲經喜郡製茶組合を設立(幹事長伊東熊夫)	▲合併後公選町長に北川権太郎就任	▲合併後公選町長に北川権太郎就任	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充
一八八五	明治 18	▲田辺の念仏寺を西念寺に合併	▲大住村史(西田直二郎著)発刊	▲大住村史(西田直二郎著)発刊	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充
一八八五	明治 18	▲7 南山義塾、府立三山木中学校となる	▲町議会議員選挙行われる	▲町議会議員選挙行われる	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充
一八八六	明治 19	▲淀川流域の大水害	▲片町線にダイヤルカー走る	▲片町線にダイヤルカー走る	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充
一八八六	明治 19	▲蚕糸業組合を設立	▲普賢寺観音寺本堂再建工事(29年落慶)	▲普賢寺観音寺本堂再建工事(29年落慶)	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充
一八八七	明治 20	▲伏見裁判所田辺出張所(田辺登記所)を設置(棚倉孫神社内)	▲4 本町にはじめての町営住宅十戸を関屋団地に建設、以後も建設さかん	▲本町にはじめての町営住宅十戸を関屋団地に建設、以後も建設さかん	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充
一八八八	明治 21	▲棉花の栽培衰退	▲5 「田辺町政だより」創刊	▲「田辺町政だより」創刊	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充
一八八八	明治 21	▲三山木中学校(南山義塾)発展的解消	▲12 片町線大住、上田辺駅新設	▲片町線大住、上田辺駅新設	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充
▲3 関西鉄道株式会社設立			▲8 南山城地方に大水害。井手町では大正池の決壊、玉川のハンランにより死者、行方不明百有余の命を奪う	▲8 南山城地方に大水害。井手町では大正池の決壊、玉川のハンランにより死者、行方不明百有余の命を奪う	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充
▲南山農事会結成(出島甚九郎ら奔走)			▲9 台風十三号による風水害で全町に荒々しいツメ跡	▲台風十三号による風水害で全町に荒々しいツメ跡	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充
▲山城起業銀行設立			▲6 町税の納税組合できる	▲町税の納税組合できる	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充
			▲6 田辺音頭、田辺青年の歌謡さる	▲田辺音頭、田辺青年の歌謡さる	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充
			▲6 私立大住保育所認可発足	▲私立大住保育所認可発足	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充	▲3 田辺上水道施設拡充

歴町田 明治時代か

1889	明治 22	▲市制町制実施され、田辺・薪・河原・興戸・四力村を合併して田辺町発足 大住村、松井村合併して大住村発足 三山木村と宮津村と合併して三山木村発足 草内村、東村、飯岡村合併して草内村発足 水取村、多々羅村、上村、天王村、高船村、打田村合併して普賢寺村発足
1890	明治 23	▲田辺村農会創設 ▲7 第一回衆議院議員選挙で伊東熊夫(普賢寺)当選(第四区)
1891	明治 25	▲12 関西鉄道一部開業以後順次区間の拡張 ▲多々羅の不動寺廃寺となる ▲第二回総選挙で西川義延(田辺)当選
1893	明治 26	▲大住の月読神社社殿建立 ▲田辺、草内、三山木、普賢寺村組合立、弘道高等小学校設立
1894	明治 27	▲実業補習学校でてる ▲3 第三回総選挙で田宮勇(普賢寺)当選 ▲8 第四回総選挙で喜多川孝経(田辺)当選
1895	明治 28	▲良福、出島穂(出島甚九郎の作)けんてんされる ▲河内街道(田辺川河内側)の道幅を拡張(現在の国道三〇七号線)
1896	明治 29	▲8 田辺村に消防組設置 ▲8 田辺村の遊病院でてる
1897	明治 30	▲小学級喜郡地誌付史談(小林満三郎著)刊行 ▲大住、三山木、普賢寺の遊病院設置
1898	明治 31	▲4 関西鉄道(片町線)長尾川新津間開通(田辺駅設置)
1899	明治 32	▲7 綴喜郡会および郡参事会の開設、郡役所田辺村におかれる ▲田辺駅から奈良街道にいたる新道でてる
1900	明治 33	▲綴喜郡農会でてる
1901	明治 34	▲木津川堤の防備工事完成(明治27年着手)
1903	明治 36	▲三野の木津川樋門改築 ▲郡役所と町役場間に電話敷設 ▲草内小学校に幼稚園付設(大正2年廃止)
1904	明治 37	▲9 玉水橋架設
1906	明治 39	▲10 町制施行(田辺村が田辺町となる)
1907	明治 40	▲3 天津神川下に墜道が開通
1908	明治 41	▲北鉢立の松枯れる
1909	明治 42	▲5 田辺郵便局の電話通話始まる
1910	明治 43	▲町内各産業組合の設置 ▲帝國在郷軍人会分会結成 ▲田辺町、三山木村、草内村三カ町村組合立の女子手芸学校設立
1911	明治 44	▲6 草内郵便局でてる
1915	大正 4	▲大住村に電灯つく
1916	大正 5	▲田辺町に電灯つく
1917	大正 6	▲2 三山木郵便局でてる
1955	昭和 30	▲7 町立三山木保育所認可発足 ▲7 国警綴喜地区署(井手町)本町に移転 ▲7 田辺町振興祭ひらく ▲7 奈良電「興戸駅」新設 ▲10 町議会議員選挙の小選挙区制を大選挙区制に改む ▲12 河原にカトリック教会でてる ▲4 町長に北川橋太郎再選 ▲7 郡土田辺の歴史と伝説(村田太平著)発刊 ▲7 役場庁舎改築工事竣工 ▲7 町立図書館開館 ▲10 国勢調査(町の人口、一万五千三百八十七人世帯三千二百二十六戸となる)
1956	昭和 31	▲3 草内法泉寺本堂再建
1957	昭和 32	▲3 田辺郷土史会発足 ▲3 役場出張所を廃止 ▲4 草内保育所を町立に昇格 ▲7 町内五地区農業委員会を統合 ▲7 藤林普山百二十年祭、普賢寺小学校で行われる
1958	昭和 33	▲2 飯岡区の電話(井手局)を田辺局に編入 ▲10 松井区の電話(有智郷局)を田辺局に編入(全町一局となる)
1959	昭和 34	▲6 奈良電三山木駅川玉水橋間、府道直線道路開通 ▲7 田辺地区水道工事完成 ▲8 田辺西浜排水ポンプ場完成 ▲3 田辺郷土史古代篇発刊 ▲4 町立田辺高等技芸学院新校舎竣工
1960	昭和 35	▲4 町長に伊東義純就任 ▲12 山城大橋起工式 ▲8 三山木東地区水道布設工事完成 ▲10 国勢調査実施(人口一万五千七百九十三人、世帯三千四百四十二戸となる)
1961	昭和 36	▲11 田辺ゴルフ場開場 ▲4 町立隣保館でてる
1962	昭和 37	▲4 筒城宮址に顕揚碑建立 ▲4 草内、飯岡区簡易水道事業開始 ▲9 第二室戸台風、本町を襲い、大被害を受く ▲9 じんかい処理場建設 ▲2 府立工業高校が本町河原の小学併合に決定 ▲2 田辺町章を制定 ▲5 都市計画地域に指定される(町全域) ▲7 三山木、大住水道敷設工事完成 ▲11 田辺郷土史会、京都府教育委員会から教育功労者表彰を受く
1963	昭和 38	▲京阪バス田辺川方側運行 ▲2 田辺郷土史社寺篇発刊 ▲2 都市計画にもとづく航空精密地図でてる ▲4 打田区に奈良電バス開通 ▲4 田辺町長に北尾敬治就任
1969	昭和 44	▲9 町づくり審議会発足 ▲9 田辺郵便局舎新築落成(開局9・24) ▲9 山城田辺電報電話局新築落成、電話自動化なる
1970	昭和 45	▲10 日赤田辺診療所改築工事竣工 ▲12 京都府田辺町史発刊 ▲3 田辺町農業協同組合発足(五農協合併) ▲6 町の花「ひらとつじ」制定 ▲11 町人口二万人を越える
1971	昭和 46	▲4 彦根・水口川方線が国道三〇七号線に昇格 ▲8 第一回町夕涼みのついで開催 ▲12 田辺町消防本部発足 ▲4 町長に原田喜代次再選
1972	昭和 47	▲4 田辺幼稚園開園(以後八園新設) ▲7 府営団地完成 ▲9 田辺町消防署設置 ▲4 田辺東小学校開校
1974	昭和 49	▲12 町立三山木福祉会館に「南山学園」開設 ▲3 普賢寺小学校打田分校を廃し普賢寺小学校に統合 ▲7 戸籍の公開制限行われる ▲7 田辺中央公民館完成
1975	昭和 50	▲10 移動図書館実施 ▲2 流域下水道事業に着手 ▲4 町長に原田喜代次三選
1976	昭和 51	▲5 老人福祉センター「常磐苑」完成 ▲8 町人口三万人を越える ▲5 上水道管ノ口受水場完成
1977	昭和 52	▲10 田辺木津川運動公園完成 ▲11 町合併25周年記念式典 ▲11 田辺音頭レコード化
1978	昭和 53	▲4 府立田辺高校に普通科設置 ▲9 町立田辺児童館開館 ▲3 府住宅供給公社「大住団地」第一期分入居
1979	昭和 54	▲4 町立郷土民俗資料館完成 ▲4 町立郷土民俗資料館完成 ▲4 し尿処理場「緑泉園」完成
1980	昭和 55	▲4 田辺都市公園「テニス・バレーコート」完成 ▲2 八幡市との飛地交換成立 ▲4 高船に水道給水開始・全町に上水道普及 ▲4 町長に原田喜代次四選 ▲4 松井ヶ丘小学校・大住中学校開校 ▲7 草内木津川運動公園完成 ▲1 消防新庁舎完成
1981	昭和 56	▲4 薪小学校開校 ▲4 田辺都市公園「野球場」完成 ▲3 町人口四万人を越える ▲6 町立竜王青少年野外活動センター1開所 ▲8 休日診療所・保健センター1開所 ▲10 町合併30周年記念式典



ゴミ焼却施設・昭和36年に焼却能力一日4トンでスタート。以後、増設を行い昭和47年12月環境衛生センター(甘南備園)に、現在能力一日45トン。



新しい田辺町が誕生して、はやくも三十周年を迎えました。この間、地域社会のめまぐるしい変化の中で、静かな農業を中心とした町から人口増加の著しい大都市近郊の町として大きな成長をとげてきました。みなさんにも色々な思い出があるのではないのでしょうか。そこで「温故知新」のことわざにもあるように、これまでの三十年をふり返って、あの日、あの時のことを回想していただき、これから新たに市制施行に向けて大きく前進する田辺の明日の姿を考えていただきたいと思います。



南山城地方集中豪雨で大水害(28年災害・昭28.8)



彦根・水口一牧方線が国道307号線に昇格(昭45.4)

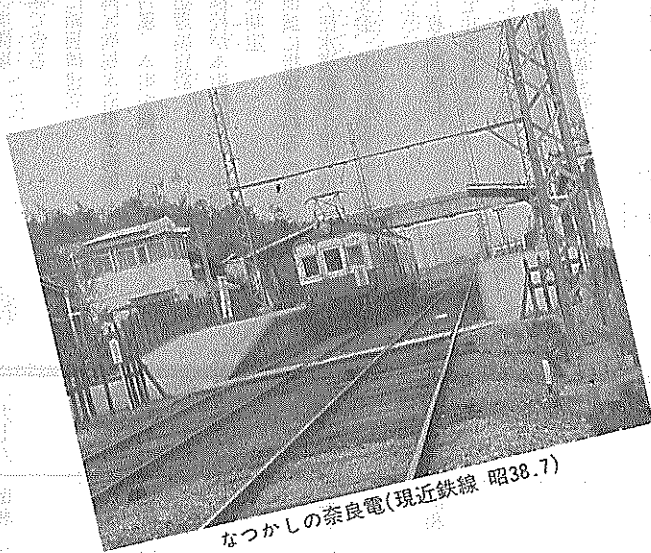


木津川玉水橋架けかえ工事竣工(昭和31.11)

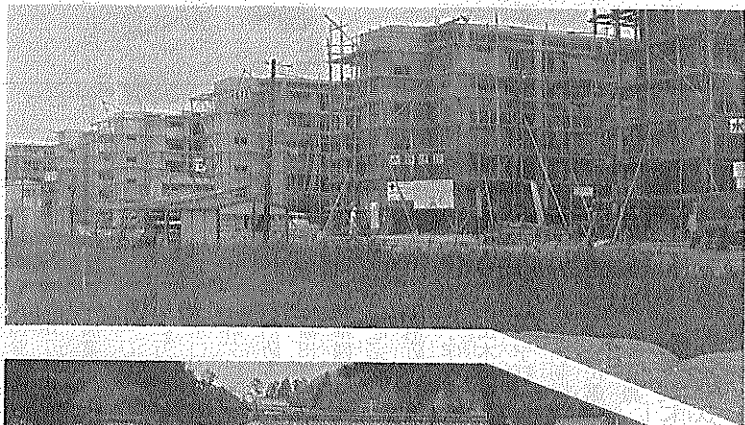
あめの目あめのすけ



まほろしの青草橋といわれた山城大橋完成(昭39.4)



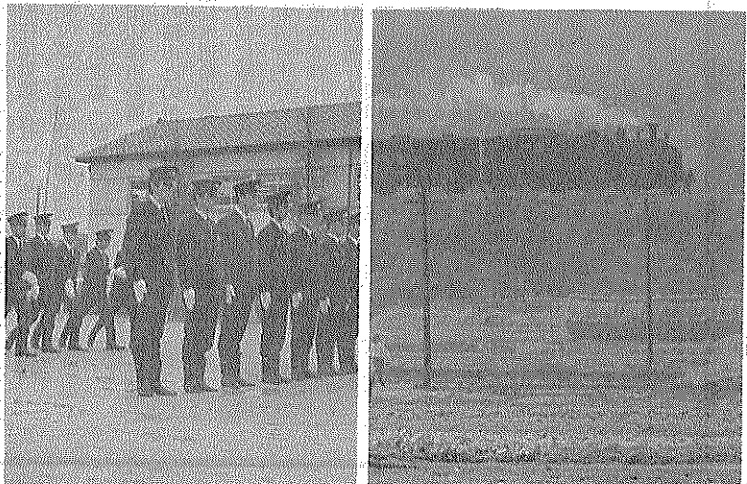
なつかしの奈良電(現近鉄線 昭38.7)



建築中の府営団地(昭44)



普賢寺小打田分校(現・郷土民俗資料館)授業風景。昭和49年に廃校となる。



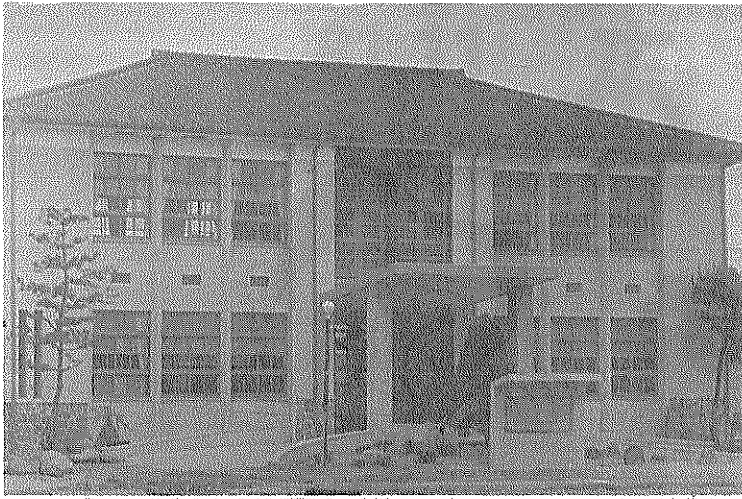
消防署が設置され消防・救急体制も万全に(消防署設置披露式・昭46.9)

片町線にもSしが

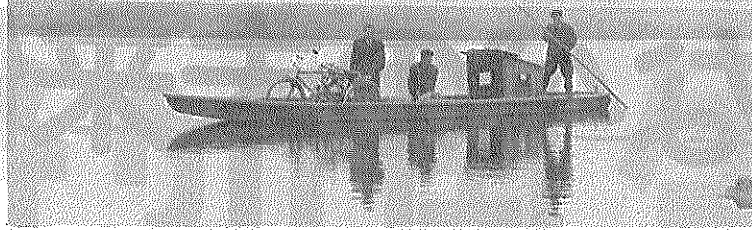
おもいで

写真集

合併後の新しい田辺町役場庁舎(昭30・7)



木津川の渡し(現在の山城大橋下流・昭38・12)



農免道路開通(昭43・4)



松井ヶ丘造成地(昭44・11)



大住、草内、三山木、普賢寺の四ヵ村を廃し田辺町に編入統合・大田辺町成立祝賀式(昭26・4)

電話自動化になる(昭43・9)

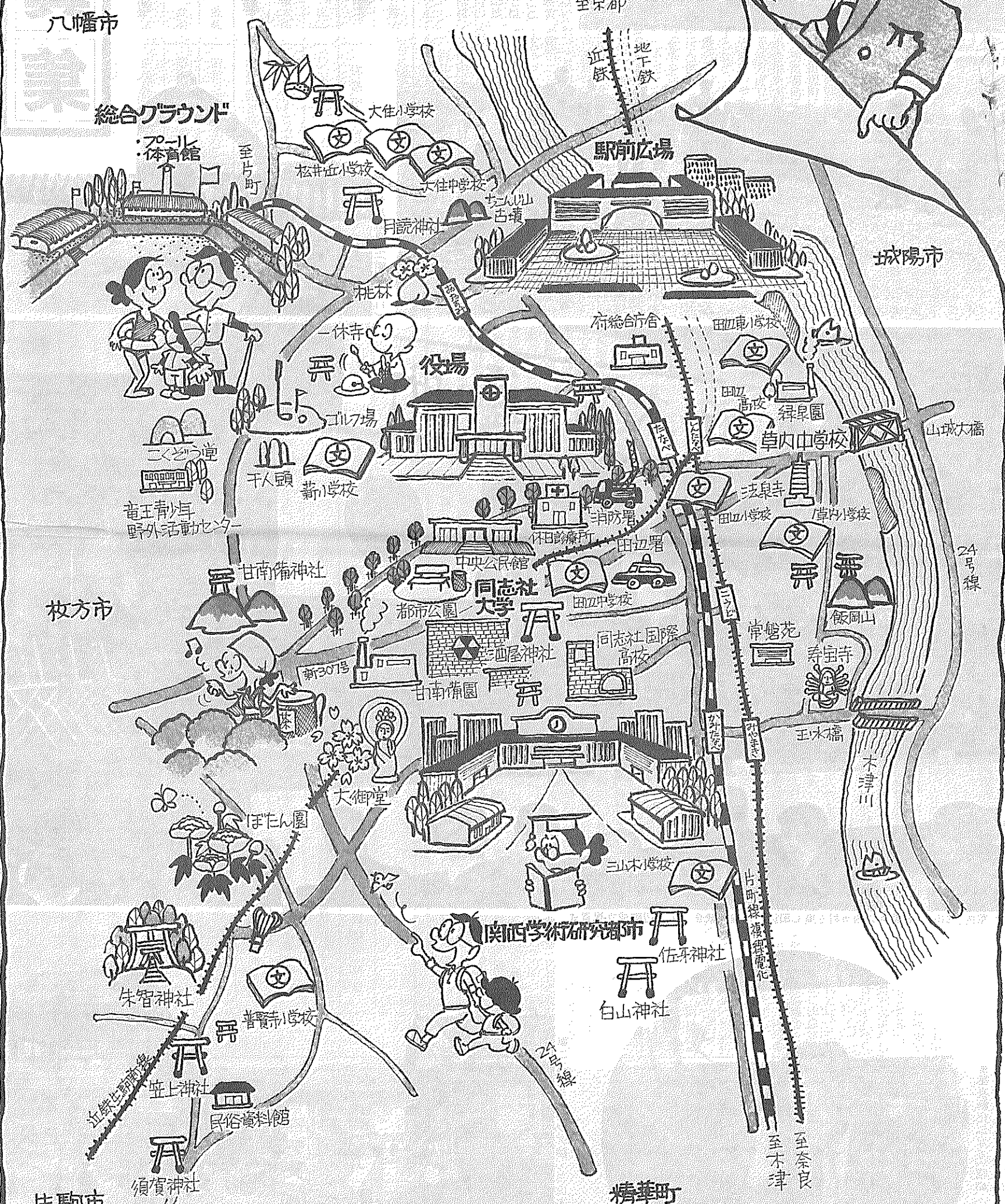


第二室戸台風のツメ跡・三山木小と旧村役場(昭36・9)



のりんはす

たなべの未来像



(注) 構想施設等の位置はイラストのため相違があります。